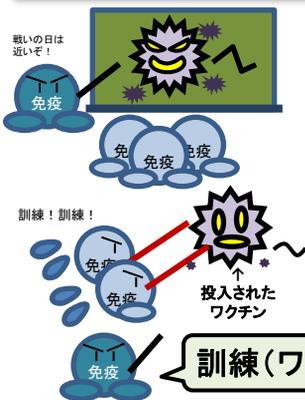


1. ワクチン接種は「免疫の訓練」。絶対本物の敵に勝てるという保証はない。



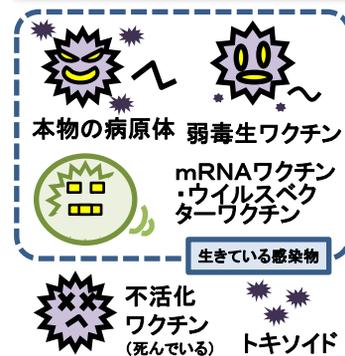
人間には一度体に入った病原体に対して「免疫記憶」を作り、再び同じ病原体が入った時にすぐに対応できるようになります。この仕組みを利用し、特定のウイルスの模造品(=ワクチン)を体内に注入して免疫学習させ、本物が来るのに備えるのが「予防接種」です。

しかし、いくらワクチンを打っても感染すること自体を防ぐことはできませんので、**うまくいけば「発症せずに治る」かもしれませんが、「軽い症状が出て治る」位かもしれませんし、基本的な免疫力が弱ければ「効果なし」という結果に終わるかもしれません。**いくら訓練を積んだ兵士が国を守っていても、必ず戦いに勝てるわけではないのと同じです。

そのため「**ワクチンを打ったから安心**」ということではなく、**手洗いやマスク、3密回避などの基本的な予防行動は継続して行う必要があります。**

訓練(ワクチン接種)だけで勝てると思うな! 常に敵への注意(3密回避等)を怠るなかれ!

2. 新型コロナワクチンのこれまでのワクチンと違う「人工ウイルス生ワクチン」



ワクチンは従来、①類似する弱い感染物である「弱毒生ワクチン」、②死んだ状態の病原体である「不活化ワクチン」、③感染物を作る毒素のみを取り出した「トキソイドワクチン」の3種類がありました。やはり本物に近ければ近いほど訓練効果は高く出るので、効果は一般に①>②>③となります。麻疹・風疹などのワクチンは①の弱毒生ワクチン、インフルエンザワクチンは②の不活化ワクチンが一般的です。

ただ、今回新型コロナウイルスに対して開発され、市場に流通するワクチンは主に「mRNAワクチン(メッセンジャーRNAワクチン)」や「ウイルスベクターワクチン」と言われているものです。これらはコロナウイルスの遺伝子を部分的に切り取って極力無害化し、それを人工的なウイルス体(ベクターウイルス)に入れたものです。いわば、「人工ウイルス生ワクチン」であり、基本的に挙動は一般のウイルスと同じです。

3. 副反応は今のところ従来の生ワクチンと大差なし

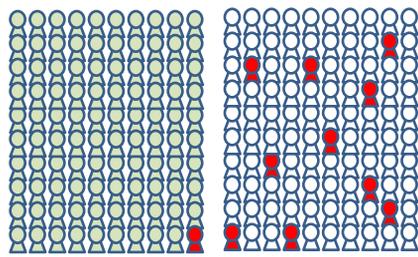
これまでワクチンは自然発生の弱い感染物を選んで増やしてワクチンにしていたのが一般的なので、「人工ウイルス」という意味で新規性があります。このため、大衆的にはなんとなく不安がる方も多いと思われます。

しかし、基本的にはこれまでの生ワクチンと同じであるので、副反応(ワクチンによる有害事象。主にアレルギーなど)も、すでに数百万人に投与されていますが、これまでの生ワクチンと大差ないように見られています。

副反応	新型コロナワクチン	他の既存ワクチン
重度のアレルギー反応	100万人あたり10人	100万人あたり1人
倦怠感・頭痛等軽度の反応	約10%	約10%
特有の重度有害事象	今のところなし	100万人あたり1人

もちろん、日本人での投与例はまだ少なく、また長期的な影響は十年先、二十年先にしかわかりませんが、ワクチン接種と似たようなこと(ウイルス感染)は人体で日常的に起きていることですので、あまり心配しすぎるのもどうかと思います。

4. 効果は「90%」というのは実際よくわからないが、それなりに効果が期待できる



ワクチン接種者 (左) / 非接種者(偽薬投与) (右)

● = 感染者(発症者)

現在流通開始したワクチンはだいたいどれも「90%効果があった」と言われていますが、これは「**ワクチン投与した人で感染(発症)した確率は、投与しなかった人の1/10だった**」というだけのことで、それなりに感染(発症)していますし、コロナの流行状況にも影響されるので「必ず感染予防ができた」と言える数字ではないし、ワクチンを打ったのに感染(発症)した人にとっては「効果がなかったじゃないか(怒)」と思うでしょう。

ただ、ある集団での発症確率が1/10になれば、その集団がクラスターの発生等で機能停止になる確率も1/10となります。費用対効果はそれなりにあると思います。

5. 一般への接種スケジュールはまだ不透明

ワクチンは2月~3月位に医療従事者への接種が始まり、その後高齢者、持病のある人・高度肥満の人、一般へと進めていく、とされています。ただ今のところ確定しているのは医療従事者への投与だけで、それ以降はまだ自治体で調整が行われている最中で、末端医療機関にはまだ特に情報がありません。

一般の方への接種は、現在の感染流行が多少は落ち着くと思われる**本年夏位になるのではないかと**思われます。